

科目名	生体機能代行装置学Ⅲ（代謝）①					授業の種類	講義	必修・選択		必修
授業回数	30	回	時間数	60	時間	2	単位	配当学年時期	2年	前期
<b>【授業の目的・ねらい】</b> 現在の血液透析患者数は約33万人まで増加し、在宅にまで治療の場が広がっている。血液浄化業務には、多くの臨床工学技士がかかわっている。そのため、血液浄化療法における知識・技術を身につけることは必須となる。血液浄化療法の基礎、関連する病態、現状を理解することを目的とする。										
<b>【実務者経験】</b> 臨床工学技士として舞鶴共済病院や神戸大学医学部付属病院等で、慢性維持透析業務や人工心肺・急性期の血液浄化・救急医療等の業務に従事経験。										
<b>【授業全体の内容の概要】</b> 代謝の基礎と関連する病態、血液浄化療法で使用される機器や物品の原理を学び、血液浄化療法についての理解を深める。										
<b>【授業終了時の達成課題（到達目標）】</b> ①血液浄化療法について論理的に理解し、説明できる。 ②病態や倫理的問題を学ぶことで、患者とのかかわり方について考えることができる。										
回数	講義内容								準備物(教材)	
1	授業ガイダンス、血液浄化療法とはどのようなものを学ぶ									
2	血液浄化に関連する解剖生理									
3	腎臓疾患と病態生理について									
4	腎機能検査について									
5	血液透析の導入基準について									
6	血液透析の原理について									
7	ダイアライザの性能指標について									
8	透析量評価の指標									
9	透析膜の種類と特徴について									
10	治療方法について									
11	水処理装置、透析液供給装置について									
12	監視装置、個人用透析装置について									
13	透析液、抗凝固剤の種類と特徴について									
14	確認テスト									
15	安全管理：水質管理について									
<b>【使用教科書・教材・参考書】</b> ・臨床工学講座 血液浄化療法装置 第2版、日本臨床工学技士教育施設協議会、医歯薬出版株式会社										
<b>【準備学習・時間外学習】</b> ・事前に教科書を読んで講義に臨むこと ・講義後は板書とメモと教科書を用い、要点をまとめること ・ME2種や国家試験の過去問にも積極的に取り組むこと										
<b>【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】</b> 試験の結果を100点満点として成績を評価する 試験は定期試験のみ実施とし 60点以上の場合に科目を認定する										